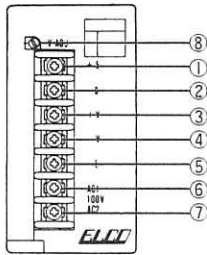


# JMC-1,2,3 取扱説明

## 1. 端子配列・ボリューム



- ①+5 +5V出力端子
- ②G +5V、±V GND端子
- ③+V +V出力端子
- ④-V -V出力端子
- ⑤E 接地端子
- ⑥AC1 } 入力端子 AC85~132V 1φ48~440Hz又は
- ⑦AC2 } DC110~170V
- ⑧V.ADJ 出力電圧可変ボリューム

## 2. 機能説明

### 2.1 過電流保護

- +5V  
±Vが全負荷の時は5.5A~8.0A、無負荷の時は9A~13Aで保護回路が動作し始め、出力ショート状態で5~8Aになるフノ字垂下型です。
- ±V  
定格電流の105~150%で保護回路が動作し始め出力ショート状態で定格電流の20~60%になるフノ字垂下型です。
- 過電流となる原因を取り除くと出力は自動的に復帰します。
- 過電流状態での使用は電源の寿命を縮めますので、出力電流が定格内に入っていることを確認のうえご使用ください。

### 2.2 過電圧保護

- +5Vだけ過電圧保護回路を内蔵しています。
- 出力端に5.75V~7V以上の電圧が出ると過電圧保護回路が動作して+5V及び±Vの出力を遮断します（出力端に外部から印加されても動作します）。
- 復帰は、入力電源の再投入で行えますが、必ず原因を取り除いてから行ってください。

### 2.3 ±V出力電流

- ±Vを同時に全負荷で使用するためには+5Vは1A以上の負荷電流が必要です。また、+5Vが無負荷のときには±Vの負荷電流の合計で0.3Aまで使用できます。

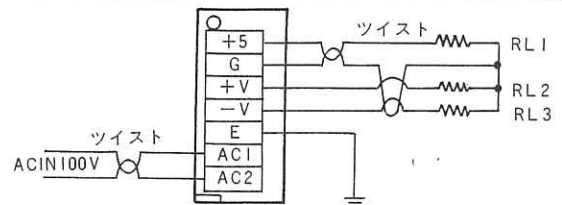
### 2.4 出力電圧可変

- 出力電圧の変は+5Vだけ可能で、前面パネルのボリュームで行い、右回転で高く左回転で低くなります。
- 可変範囲は4.8~5.2Vです。
- 出力電圧をあまり上昇させると過電圧保護回路が動作する場合があります。
- ±Vの出力電圧は可変できません。

### 2.5 絶縁耐圧

- 受入検査等で耐圧試験を行うときは電圧を徐々にあげてください。また、遮断するときもダイヤルを使用し、電圧を徐々にさげてください。特にタイマー付き耐圧試験器でのタイマー使用は避けてください。

## 3. 入出力端子への配線



- AC入力線と出力負荷線は分離しツイストしてください。耐ノイズ性が向上します。
- 出力負荷線は太く短かく配線し、ラインドロップは0.1V以下にしてください。

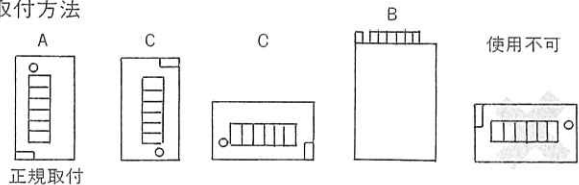
## 4. 直列・並列運転

- 他の電源ユニットとの直列運転及び並列運転はお避けください。
- やむを得ず直列運転及び並列運転をされたい場合、当社へ問い合わせください。

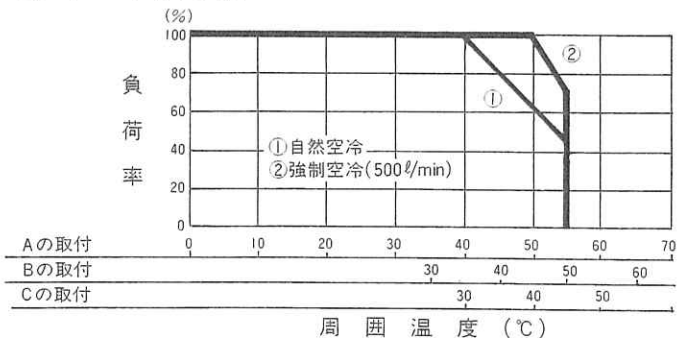
## 5. 出力ディレーティング

- JMCを定格温度以上、正規取付以外及び強制空冷で使用される場合は次の要領でご使用ください。

### (1)取付方法



### (2)ディレーティング表



## 6. 複数の電源の使用

- 複数の電源を並べてご使用になる場合は、電源の間隔は30mm以上開け、下面から上面への自然対流を考慮してください。

